



金婚夫婦の表彰状を受け取る受賞夫婦

9/26(土) 金婚夫婦表彰式

宇土市保健センターで金婚夫婦表彰式があり、結婚50年を迎えたご夫婦に、宇土市と熊本日日新聞社より、表彰状と記念品が贈呈されました。今年は56組の夫婦が対象でそのうち33組が表彰式に出席。光井市長は「50年という長い歳月には、数えきれないご苦労とともに、多くの喜びや感動もあったと思います。これからも仲睦まじく、健やかでお幸せな日々を重ねていかれますことをお祈りします。誠におめでとうございます」と祝辞を述べました。表彰式の最後に代表謝辞で岩村俊明さんが登壇され、50年連れ添った裕子さんに「見えないところで苦労をかけていたと思う。これからはできるだけ長く同じ景色を眺めていきたい、ありがとう」と感謝の言葉を贈られました。



受講生に熱心に講義する光井市長

9/15(火) 就任後、初の市長講話「ワンチームで」と市民大学、市民30人が熱心に聴講

宇土市の生涯学習事業「うと市民大学」で市長講話があり、光井市長が今夏の地震対応や市政の基本方針を語りました。4月に就任した光井市長にとって初の講話で、市民ら約30人が熱心に聴講。まず、「リ災証明の認定や水の問題など、さまざまな要望や課題があり、市も精いっぱい取り組んでおります。行き届かない点もあるかと思いますが、もうしばらくお待ちください」と理解を求めました。次に市政について「市役所だけではなく民間とも連携。10年後、20年後の宇土市を見据え、活力とにぎわいのあるまちづくりを考えていきたい」と述べ、「市民の信頼を獲得し、ONE TEAMで動いて、市民の幸せのために努力していきたい」と結びました。



株式会社カインズ熊本宇土店 西村健人店長(右)

9/28(月) カインズとクーリングシェルター協定を締結

宇土市と株式会社カインズは、「熱中症対策指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)に係る協定」を締結しました。クーリングシェルターは、熱中症による健康被害を防ぐため、「熱中症特別警戒アラート」が発表されたときなどに一般開放し、暑さをしのぐ場所として利用できる施設です。西村店長は、「企業としてだけでなく、地域の一員として皆さんの役に立ちたい。この協定をゴールではなくスタートと考えています」と話しました。今回の協定締結は、カインズとして全国28店舗目、九州では初となります。カインズ熊本宇土店も今回の地震で被災し、一時休業を余儀なくされましたが、店頭での販売など、できるところから営業を再開。復旧に取り組む中で今回の協定締結に至りました。



お披露目されたドローイングアートの前で記念撮影する参加者の皆さん

10/1(木) 《ドローイング手形アート》の除幕式が行われました

宇土市役所内において《ドローイング手形アート》のお披露目式(除幕式)が開催されました。本作品は、9月5日に開催された、うと Re:CONNECT プロジェクト主催のイベント「うと てとて わくわくナイト」にて、市民の皆さま約200名と一緒に制作したアート作品です。復旧から復興へと進む宇土市において、「私たちは1人じゃない」「みんなの手でまちを作っていく」という想いを込め、「ONE TEAM」の文字と、参加された皆さまの「今」を刻む手形を重ね合わせました。当日は、「ONE TEAM」の文字を書かれた宇土市の書道家・田代万葉さんも参加し、作品の完成と展示をともにお祝いしました。市役所にお越しの際は、ぜひ近くでご覧ください。



出場選手(監督)紹介

- 1 村上裕一監督(セーリング)
- 2 光永雅翔選手(セーリング)
- 3 秋山恵澄選手(セーリング)
- 4 村上愛梨選手(ライフル射撃)
- 5 野村浩貴監督(相撲)
- 6 佐藤珀呂汎選手(相撲)
- 7 本田豪太郎選手(相撲)
- 8 福田蓮選手(新体操)
- 9 三浦陽奈選手(ハンドボール)
- 10 高山由衣選手(ハンドボール)
- 11 八木杏歌選手(ハンドボール)
- 12 高田芽生選手(ハンドボール)
- 13 内山穂乃佳選手(ハンドボール)
- 14 中川りのあ選手(ハンドボール)
- 15 齊藤亜希選手(ハンドボール)
- 16 後藤柚希奈選手(ハンドボール)
- 17 奥村柚奈選手(水泳)
- 18 川端孝佳選手(バスケットボール)
- 19 野田真一郎監督(ウエイトリフティング)
- 20 井手裕人監督兼選手(軟式野球)
- 21 坂崎愛華選手(卓球)
- 22 前田凰樹選手(トライアスロン)

9/24(木) 第80回国民スポーツ大会 青の煌めき あおもり国スポ 宇土市激励会・報告会

宇土市役所で「第80回国民スポーツ大会 青の煌めきあおもり国スポ 宇土市激励会・報告会」を開催しました。大会は9月3日から始まっており、すでに競技を終えた選手からは大会の結果が報告されるとともに、これから競技に臨む選手へエールが送られました。相撲少年男子の佐藤珀呂汎(いろは)選手は、団体4位という結果を報告。「優勝を狙っていたので悔しい結果ですが、あの舞台上で相撲を取れたことは、とても貴重な経験になりました。応援してくださった方々への感謝と、この悔しさを忘れず、日々の練習に精進していきます」と今後への決意を語りました。

お詫びと訂正

広報うと10月号P36うとのできごと「宇土の中学生、地震をはねのけ、全国大会で大活躍」の鶴城中ハンドボール部大会優秀選手 平江心美さんの学年に誤りがありましたのでお詫びして訂正します。

正)2年 誤)3年



表彰を受けた宇土市生活安全パトロール隊の山下八郎さん(左)

10/15 県警が警察協力功労者として感謝状「これからも頑張ります」と山下さん

県警から警察協力功労者として感謝状を贈られた宇土市生活安全パトロール隊、山下八郎さん(91)＝岩古曾町＝が光井市長を訪ね、受賞の報告をしました。県警は警察業務や地域の交通安全などを支えてきた警察協力功労者を表彰、2026年は山下さんら計11人が選ばれました(10月6日)。山下さんは平成10年代ごろから活動。「ボランティアで引き受けてくれる人が少なくなりましたが、これからも頑張ります」と述べると、光井市長は「立派な賞で、市にとって明るいニュース。長生きをされて、今後も本市のためによりしく願います」とたたえました。



寄付金贈呈、宇土市も感謝状贈る

10/13 明治安田生命保険相互会社が市へ寄付金贈る 光井市長「責任もって活用を」と感謝状

明治安田生命保険相互会社の梅野勝義・熊本支社長、吉田太陽・宇土営業所長ら5人が宇土市役所を訪ね、市に寄付金を贈呈されました。これは同社の従業員が取り組んでいる「私の地元応援募金」と、今夏の地震で大きな被害を受けた宇土市への二つの寄付金です。梅野支社長が「宇土市も地震でインフラなどに大変な影響を受けたと聞いています。一日も早い復旧・復興を願っています」とお見舞いを伝えると、光井市長は「御社の皆さんのお心遣いに感謝申し上げます。被災者の生活再建や健康づくりなどに責任をもって活用させていただきます」と述べ、感謝状を贈りました。



令和も海上の安全を見守る住吉灯台

11/1 有明海の安全見守る白亜の住吉灯台 11月1日は灯台記念日

日本初の洋式灯台「観音埼灯台」(神奈川県)の起工日(1868年11月1日)にちなみ、この日は灯台記念日。宇土市にも海上の安全を長年見守ってきた白亜の住吉灯台があります。第10管区海上保安本部の管轄で、市商工観光課の説明板によると、1724(享保9)年、海の安全を願って住吉神社境内に高灯ろうが寄進されたのが始まりだそうです。1933(昭和8)年に有明海を望むこの地にコンクリート造りで建てられ、1985(昭和60)年12月に現在の灯台に改築。昔から有明海～緑川を経て熊本へ向かう海上航路の要衝だったことがうかがえます。



建設型応急住宅17戸が完成

10/16 浦田仮設団地で鍵引渡し式、生活再建へ踏み出す

令和8年熊本地震で自宅での生活が困難になった人たちの生活再建に向けた、宇土市第1号の建設型応急住宅「浦田仮設団地」(17戸)が市民広場に完成。光井市長から入居者へ「鍵引渡し式」がありました。式には団地の建設に尽力した県土木部建築住宅局の折田義浩局長、生活支援物資を代表して寄贈した宇土ロータリークラブの大久保太郎会長、洗濯機や冷蔵庫を贈った特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの橋本笙子さんら関係者が参加。光井市長が「市民の命を守る安全、安心を目指して一日も早い復旧、復興を目指してまいります」と述べ、入居者の一人一人に鍵を渡しました。入居者は畳に触れたり、家電の位置を確認するなどして、新たな生活を踏み出しました。